

さつまいもプロジェクトの実情と問題点

令和2年2月27日

NPO 法人うつくしま・ふくしま農産物普及推進協議会

事務局長 松村正彦

1 なぜ、今、さつまいもなのか？

- (1) 全国のさつまいもの生産は、この10年間に栽培面積が12%、収穫量が20%減少したが、産出額は22%増加。

この10年間（平成20年～平成29年）、栽培面積は40,700haから35,600haへと12%減少、収穫量は1,011千トンから807千トンへと20%減少、産出額は平成19年から平成28年の10年間に952億円から1,034億円と22%増加。

- (2) このような産出額の増加の結果、10a当たり産出額の試算値が平成19年の234千円から平成28年の287千円へと22.6%増加。

10a当たり産出額287千円は、水稻の2倍。

10a当たりの労働時間は、苗の移植作業、掘り取り作業の機械化により26時間まで削減されている。水稻の労働時間（平均28時間/10a）とほぼ同程度。

- (3) 一方、福島県は、昭和23年に栽培面積5,430haと平成29年の茨城県（栽培面積6,700ha）、千葉県（栽培面積4,130ha）と同程度の生産規模だったが、平成29年の栽培面積54haと10年間で45%減少、収穫量は837トンで47%減少。

- (4) 水稻と同程度の労働時間で、10a当たりの収入では水稻の2倍程度が期待できることから、耕作放棄された畑地を活用してさつまいもの拡大が期待できる。

（参考）でん粉原料用労働時間（10a当たり作業時間）

	育苗	施肥 うね 立て	植え 付け	管理	茎葉 処理	掘り 取り	合計	比率 (%)
1989年慣行体系	16.5	11.8	6.0	11.7	6.0	25.0	77.0	100
2008年慣行体系	16.5	4.5	6.0	5.1	3.0	16.0	51.1	66
2008年先進農家	16.5	4.5	6.0	1.6	3.0	3.4	35.0	45
省力化体系	16.5	2.1	1.8	0.7	2.0	3.3	26.4	34

年次	作付面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (トン)	産出額 (億円)	10a当たり 産出額	キロ当た り産出額
2007	40,700	2,380	968,400	952	234,000	98
2008	40,700	2,480	1,011,000	949	233,000	94
2009	40,500	2,530	1,026,000	883	218,000	86
2010	39,700	2,180	863,600	878	221,000	102
2011	38,900	2,280	885,900	902	232,000	102
2012	38,800	2,260	875,900	851	219,000	97
2013	38,600	2,440	942,300	846	219,000	90
2014	38,000	2,330	886,500	938	247,000	106
2015	36,600	2,220	814,200	1,002	274,000	123
2016	36,000	2,390	860,700	1,034	287,000	120
2017	35,600	2,270	807,100			
2018	35,700	2,230	796,500		0	0

2 令和元年産での取り組み状況

(1) あぶくまブランド農産物生産組合の設立

田村市の豊かな自然と美しい景観を守るため、耕作放棄地を活用した農産物の生産に取り組むとともに、あぶくま洞をはじめ地域資源に根差した物語性の高い商品づくりとブランド化による地域全体の活性化をめざすため、理念に賛同する農業者が協力して、さつまいもをブランド農産物として選定して生産拡大を図るとともに、生産に必要な機械・施設を整備して共同利用することで低コスト生産を実現することを目的とする。

令和元年6月12日に設立

組合員5名

(2) 収穫用機械の整備

あぶくまブランド農産物生産組合では、つる切機（TC110-0S）マルチ巻取機（MHS350A）掘取機（BL-65D-4S）を令和元年度福島県原子力被災12市町村農業者支援事業2台ずつ導入。

(3) 栽培概要

年	生産数	面積 (a)	出荷量 (kg)	単収 (kg/10a)
2018年	5人	132	27,509	2,080
2019年	5人	145	26,040	1,800

品種：べにはるか

定植：5/下から6/上。

掘り取り：10/17～11/11（前年10/18～10/下）

規格別割合：3L以上4%、2L10%、L19%、M40%、S28%

あぶくまブランド農産物生産組合では、田村市内で145a作付した。

小玉傾向のため、単収は収穫量で約2トン、出荷量で約1.8トンにとどまった。集荷した19トンは、3トンを青果用として農産物直売所ベレッシュ等で販売し、16トンは照沼勝一商店でキュアリング貯蔵して12月下旬から青果用及び加工用として利用する。

肥料が少なかったことから小玉傾向。

令和元年度福島県原子力被災12市町村農業者支援事業でつる切機、マルチ巻取機、掘取機各2台の導入が遅れたため、他の農業法人等から作業機を借りて掘り取り作業を実施した。

3 令和2年産での取り組み

(1) 推進目標

さつまいもプロジェクト3年目は栽培面積5haをめざして推進する。

つる切機、マルチ巻取機、掘取機各 2 台の導入により、収穫作業を効率的に行う。

田村市が計画しているキュアリング貯蔵施設の導入により、青果用と干しいもの長期、高単価販売をめざす。

(2) 年間計画

- 2月 生産者の募集、あぶくまブランド農産物生産組合への加入手続き
さつまいも苗、マルチ、収穫用コンテナの注文
- 3月 ほ場の EC 測定、施肥量の目安提示、ほ場の排水対策
10a 当たり窒素 3~6kg、リン酸 4~8kg、カリ 8~12kg
元肥の例：いも化成 20kg 入り 3-10-10、20kg 入り 5-12-15
- 4月 マルチ配付 (400m×2.5 本)、ほ場準備
栽植密度：3,000 本~4,000 本、畦間 90~120cm、畦高 20~35cm
株間 25~40cm
- 5月 苗配付、植え付け
品種は「べにはるか」を主に「ベニアズマ」など
植え付けの目安は平均気温 18~20 度(地温 15 度以上)、遅霜を避ける。
福島市での降霜終日：平年 4/10 2018 年 4/13 最早 3/23 最晩 6/4
植え付け方法は、効率的な斜め植え、直立植えとする。
植え付け後 40~50 日は地表面が露出しており、放置すると雑草が発生してさつまいもの肥大を抑制するので、植え付け前の除草剤は効果的。アカザに注意。
- 8月 収穫用コンテナ配付、収穫用機械利用計画策定
- 10月 掘り取り開始
霜に合わないよう作業を進める。
降霜初日(福島市) 2019 年 11/22 平年 11/9 2018 年 11/16
最早 10/9 最晩 11/30
作業手順：つる切り、マルチ剥ぎ、掘り取り、調製、出荷販売、貯蔵
キュアリング貯蔵：庫内に散水し、密閉して加熱することで、温度 30 度、湿度 100%の条件下で 100 時間でコルク層ができ、貯蔵性が高まる。

(3) 規格

コンテナ 22.5kg (皆掛け)

品質 A：色沢、品質良好なもの B：変形、色沢否なもの。軽度の傷、線虫害をうけたもの

形量 3L：700g 以上、2L：500g 以上 700g 未満、L：350g 以上 500g 未満
M：200g 以上 350g 未満 S：100g 以上 200g 未満

(4) 検査方法

生産者は、コンテナ毎に生産者番号、品質規格・形量規格を標記。

組合は、集荷場で、コンテナ毎に皆掛け 22.5kg 以上であること、品質規格・形

量規格を検査する。

(5) 出荷販売

あぶくまブランド農産物生産組合が販売を受託して、青果用、干し芋、大学芋、焼き芋として長期販売を図る。

(6) 課題

掘り取りの作業時間を短縮したい。

作業班

機械利用計画

生産ほ場と貯蔵庫と加工場の距離を縮めたい。

田村市内のキュアリング貯蔵施設

加工で稼ぎたい。

農家の干しいもづくり